

北斗句会選句（令和3年5月）

竹内 雲泉

特選

NO. 27 幾たびも仕上り眺め剪定す

剪定は、満足するまでが難しい。

なんども眺めつつ、やっと気に入った様子が浮かびます。

選

NO. 4 銀輪の少女の列や風光る

「銀輪・少女・風光る」この言葉は、みなきらきらとして春らしい良い句で感心しました。

NO. 18 蛤や我が物顔に飛ばす汐

潮干狩りで採ってきた蛤を、自宅で塩抜きしてのことでしょうか？
しょうか？ 蛤が塩を飛ばすとはあまり聞きませんが、「我が物顔」が気に入りました。

NO. 25 八十の身の八十八夜の深呼吸

字面「八十」を連ねて「の」でつないだところが、リズムがよく良いと思います。

NO. 41 牛蛙ホルンまがいのベース打ち

子供の頃、「牛蛙」の鳴く声を良く聴きました。低い大きな声で沼などで鳴いていて、食用にするために取りに行ったものです。

「ベースを打つ」との表現は、よほど音楽に造詣深い方でしょうか？

山縣 秀雄

特選

NO 30 蜆汁仕草しのぶも供養かな

法要の場で故人を偲ぶのが一番の供養で、美味しい蜆汁の季語が良。

選

NO 4 銀輪の少女の列や風光る

颯爽と走る自転車の少女の列と季語のイメージがぴったりする。

NO 5 日輪の照らす光や南風強し

太陽の光と季語南風の対比が面白くて良い

NO 15 楠若葉大樹の黒に比しやさし

大きな楠若葉のみずみずしさが下五で良く表現されている。

NO 41 牛蛙ホルンまがいのベース打ち

牛蛙の特性が上手く楽器のホルンとベースに例えられている。

吉岡 誠山

特選

NO; 4 銀輪の少女の列や風光る

春らしい若さあふれる女性の躍動感が感じられる句である。

選

NO:2 3 水虫の未だ現役八十となる

水虫も現役で同じ80か、負けてはおれんなの気持ちがよく解る。

NO.2 7 幾たびも仕上がり眺め剪定す

素人が物作りをする気持ちが良く描かれている。

NO:3 5 やわらかき羽化したばかり蝶の舞い

羽化したばかりで蝶は舞うとい姿を見ているごとく感じる。

NO:4 1 牛蛙ホルンまがいのベース打ち

牛蛙がホルンまがいのベースを打っている如く聞こえるようだ。

森田 光彦

特選

NO. 1 ワクチンの接種またるる五月晴

鬱陶しい梅雨時の晴れ間を待ち望む気持ちと類似している現時点が見事に詠われています。季語の「五月晴」が利いています。

選

NO. 6 田螺鳴く聴こえぬほどのピアニシモ

今では、水田で田螺を見かけることは、ほとんど無い。淋しい限りである。昔を懐かしんでいる状況、作者気持ちがよく分かります。措辞のピアニシモが素晴らしい。

NO. 9 薫風を体に纏ひ老紳士

スマートな老紳士の姿が彷彿とします。

ただし、「纏ひ」は連用形なので、連体形の「纏ふ」の方が良いのでは？

NO. 2 2 知らぬ間にみな夏衣バスが行く

コロナ禍で、気候も不順、ふと気が付けばいつの間にか夏になっていた。作者の気持ちが上手く詠われています。

「バスが行く」に、その取り残された気持ちが出ています。

NO. 3 3 春愁や検査結果は連休後

検査結果を待つ不安な気持ちがよく分かります。季語「春愁」が利いています。

大田黒 幸風

特選

NO、26 彩を一斉に増す新樹かな

花が散った後一斉に緑の若葉に変身する様子が目に浮かぶ。爽やかな句である。

選

NO、4 銀輪の少女の列や風光る

銀輪が少女と相まって春の輝いている様子が浮かぶ句である。

NO、8 風受けてキラキラひかる若葉かな

今若葉のシーズン、花の豪華さとは違った輝きを感じられる。

NO、10 葉桜やこころのすみに淡き恋

豪華な花爛漫と違って、爽やかな葉桜に新鮮な恋心を感じる。

NO、31 新築の家族は若し鯉のぼり

新築に誰が住んでいるか判らないが、新しい鯉のぼりが飾ってあるところを想像すると、若い家族が幸せに生活している姿が彷彿とする句である。

大森 康正

特選

NO.31 新築の家族は若し鯉のぼり

結婚、男子誕生、自宅新築とトントン拍子の発展。鯉のぼりが増勢

選

NO.04 銀輪の少女の列や風光る

少女達の風を切る爽やか感と、明るい笑い声が伝わってくる。「風光る」の取り合わせが良い。

NO.11 川風に揃ひて泳ぐ鯉幟

河原から蒼天を仰ぎ、大集団で泳ぐ、鯉幟を眺めた時の感動が伝わる。

NO.27 幾たびも仕上がり眺め剪定す

不慣れな庭手入れの様子が、リアルに表現できた。

NO.40 雨しづく丈余に伸びし今年竹

今年竹の特徴、瑞々しい色合いと成長の勢いが窺われる。雨と若竹は似合う。

田中 資凡

特選

NO. 27 幾たびも仕上り眺め剪定す

剪定の仕上りに満足している作者の姿がまだまだと見える。
上五、中七の措辞に心地よい響きがあり巧み。

選

NO. 10 葉桜やこころのすみに淡き恋

葉桜には追憶の魔力が潜んでいるのか、作者の心に淡き恋心を、
ふとよび覚ましたというのだ。ロマンがあつてよい。

NO. 25 八十の身の八十八夜の深呼吸

八十の身と八十八夜という季節の訪れを組み合わせた巧みな句。
深呼吸に作者の心情が籠っている。

NO. 30 蜆汁仕草しのぶも供養かな

蜆汁という季語の効用か、食卓を囲む子供の頃を思い起こす。
中七、下五の措辞に在りし日の家族を思う心情が溢れている。

NO. 39 早朝の沖に数隻浅蜷舟

初夏、早朝の沖に見る風景、手練れた叙景句。

大崎 石州

特選

NO. 4 銀輪の少女の列や風光る

情景が明確で爽快感がある。
年配者が詠んだ句であることがすぐに分かるのが難点・？・。

選

NO. 18 蛤や我が物顔に飛ばす汐

「汐」は夕方の干潟のこと。
「潮を吹く」と表現するから、ここでは「潮」がよいのではないか。
「物」は「もの」とした方がよい。

NO. 31 新築の家族は若し鯉のぼり

新築の家に子供の成長を願っての鯉のぼり。
「家族は若し」が説明調。

NO. 40 雨しづく丈余に伸びし今年竹

着眼が面白い。

NO. 41 牛蛙ホルンまがいのベース打ち

牛蛙の鳴き声のリズムをもって聞こえてくる。

長池 豆陽

特選

No.21 柔らかな赤い頬つぺに春の風

12 文字をも使って生後間もないと思われる赤ちゃんを描き春の風とのハーモニーを詠う。生の讃歌と赤ちゃんの未来を祈る作者の眼差しが優しい

選

No.1 ワクチンの接種またるる五月晴

野外行動にマスクはそぐわない。しかも五月晴の絶好期、ワクチンの接種を促進し、マスクなしで野外の行動や作業を楽しみたい。全くの同感

No.18 蛤や我が物顔に飛ばす汐

コロナ禍対策で潮干狩りなども規制されているところが多い。蛤はこの時とばかりに、わが世の春然と楽しんでいる。納得の擬人化

No.27 幾たびも仕上り眺め剪定す

剪定には特有の楽しさがある。自分の美意識、価値観具現の挑戦、その過程が楽しい、景が見える

No.37 憲法記念の日孫の忘れしレゴひとつ

5月3日の祝日の背景を知る人は少なくなった。大型連休という人事の真ん中として楽しむだけ。作者は、これでは孫並みだと慨嘆、諧味十分

宮下 ひかる

特選

4 2 ; 傘さして箱根越えるや五月雨

雨にもめげず、颯爽と箱根越えが窺え、感十分。思い出して、快感しきり。

選

1 7 : 遊行柳三聖しのび古茶新茶

遊行柳、この一言で絶景が思い出され、気分爽快に古茶も新茶も美味しい。

2 1 : 柔らかな赤い頬つぺに春の風

ウォーキング中に、よく出会う光景で、如何にも真新しい生き生き赤ん坊ずばり。

2 3 : 水虫の未だ現役八十となる

若者に在りがちな水虫があり、まだまだ現役の元気が迸る八十である。

0 9 : 薫風を体に纏ひ老紳士

颯爽と薫風を受けて、歩いて行く有様が、窺えて、爽やかそのもの。八十男に好感。

藤田 紀潮

特選

NO. 31 新築の家族は若し鯉幟

平明な句だが、新、若、鯉の字が並び元気さが横溢。ベランダの鯉幟が主流であった官舎住まいの我らには羨望の景観であったことも。

選

NO. 19 菜の花や切り絵のごとき銀輪群

中七の比喻が面白い。山下清ならばどんな絵にするか。「菜畑をゆく銀輪の切り絵めく」

NO. 21 柔らかな赤い頬っぺに春の風

暖かな心情の溢れた句。直ぐ傍に赤ちゃんの姿があり、作者はその感触を確かめている？口語調が良い。

NO. 29 蜆汁仕草しのぶも供養かな

蜆汁に、在りし日の母の仕草を偲ぶ。

NO. 41 牛蛙ホルンまがいのベース打ち

下五の「ベース打つ」は楽器の操作にはちょっとそぐはないが言い得て妙か。